


棚田に吹く風

2020
夏
Summer
季刊

- 
- 2 特集
コロナ禍と棚田
- 5 フォトエッセイ
豪雪地の棚田と
これを支えるもの
- 6 棚田・里山からのたより
「子猫のひたい」ほどの棚田で
栃木県茂木町 棚田の郷かふと
- 8 トロノキファーム奮闘記
棚田の逸品
- 9 棚田博士は今日も行く
油谷湾に臨む向津具半島の棚田
山口県長門市油谷本郷
- 12 会員のひろば
- 14 かつどうノート
スタッフのつ・ぶ・や・き
- 15 Project Report

コロナ禍と 棚田



©特定非営利活動法人大山千枚田保存会

県境をまたぐ移動や三密を避けるなどの制限により、交流活動が活発な棚田ほど影響があるので……と、いくつかの棚田地域の方にお話を伺ったところ、オーナー制・体験やイベント・棚田米の販売などの課題を、知恵と工夫と地域のマンパワーで果敢に乗り切ろう！と頑張っています。棚田ファンの皆様、できることから応援を!!

棚田ネットワーク(棚田MWC)のホームページからも、今後応援のリンクを掲載していきます

大山千枚田

千葉県鴨川市

石田三三さん 大山千枚田保存会理事長

オーナー制は会費が前納なので4月の収入はさほど変わりませんが、個人オーナーの田植えは中止。地元で機械も併用し例年通り2日間で完了。地域のマンパワーにも自信を持ちました。6月の草刈りまで中止、その先は未定です。また体験活動の中止は収入減となっています。自然観察など学校関係の体験は夏まで予定が入っていませんが、次世代との交流という意味もあり、秋以降に状況が変われば安全な運営に心がけ是非復活させたいです。

棚田米は、観光の停滞で減少した地元ホテルや旅館向けの『地産地消分』を、棚田オーナーにご案内したところ大好評で、昨年並みの量は販売できそうです。ごんべい(農家レストラン)は5月29日から再開。客足は戻りつつあります。

上勝の棚田

徳島県上勝町

澤田俊明さん NPO法人郷の元気代表理事

オーナー制度はこぢんまりと続いています。棚田集落が高齢なこともあり、感染防止の観点からやむを得ず、10年継続のオーナーを受け入れ農家側からお断りした例もありました。逆にオーナー予定者からキャンセルもありました。田植えは兵庫県(関西)からの移動が困難となり不参加オーナーがありました。イベントは、恒例の早乙女田植えはチラシをつくらずPRを控えました。連携して実施している11月のライトアップ(今年は八重地の棚田)は準備していますが、どうなるか。

一方で新たな試みとして、WEBビデオツールを活用した「かみかつ棚田ウェブ談義所(仮称)」や「上勝棚田ウェブフェスタ(仮称)」の取り組みを立ち上げる予定があります。これは、上勝で2011年に行われた全国棚田(千枚田)サミットの会場となった4つの棚田地区(八重地、市宇、田野々、榎原)が連携する『上勝棚田未来づくり協議会』の活動の一環です。上勝と各都市の方々が距離を超えてウェブ上で交流できる空間を目指しています。

上勝に限らず棚田地域は一般に都会から遠いですが、コロナ後は毎日出社しなくても良い社会、となれば、町内に長期滞在してもらおう拠点として民宿等にテレワーク環境を整える等も有効と思います。棚田地域振興法による指定棚田地域にもトップグループで認定されました。今後の変化と地域を見据え、前向きに行きたいと思っています。



小型機械での田植え

房総では昨年の台風被災からコロナへと災いが続いている感があります。収入減もありますが、リアルな体験・交流活動自体が出来ないことは現地にとって相当痛手に思えます。今後、終息に目途が付き次第、順次元に戻し、活動を再開していきたいです。



webビデオツールでリモート会議

稲倉棚田

長野県上田市

大山慧一郎さん 稲倉の棚田保全委員会事務局長

交流館は4月9日から5月末まで休館でした。今年のオーナーは過去最大の95組で、田植えには250人以上集まる予定だったのですが、オーナーの9割が首都圏の方のため中止。代わりに毎月稲の成長を伝える写真を送りながらコミュニケーションを深めたいと考えています。作業については、コロナの影響を見越して春先から準備していたため、結果的に田植えは例年よりも1週間ほど早く終えました。知り合いや口コミ等で毎日地域の方々が手伝いに来てくれたのも助かりました。コロナで休業中の鹿教湯温泉にある旅館の従業員の方々も手伝いに来てくれるなど、例年になく地域一丸となり取り組めました。

青空の下での総会



棚田米の販売はGWの来訪者もなく、夏も引き続き厳しい見込みです。市役所や棚田CAM P参加者に棚田の厳しい状況を伝えたところ、20袋ほど売れ助かりました。大好評の棚田CAM Pでは日中に農作業し、棚田に泊まっていただけるような新しい取り組みも考えていき、棚田CAM Pから棚田ファンへという方を増やしたいです。

金銭面の減少もありますが、イベントや農作業を通じた交流が滞るのは痛いです。来年以降の危機感もありますが、ここは踏ん張りたいです。

白米千枚田

石川県輪島市

堂前助之新さん 白米千枚田愛耕会代表

オーナー制は、田起こし（4月上旬）、あぜ塗り、田植えは地元で実施しました。現在210組（新規40組）で首都圏60%、県内30%、他の地方10%のため、集まるのは困難です。例年田起こし当日にマイ田んぼを選びますが、今年は愛耕会で田んぼを決めて全員に写真を送付しました。令和元年から発行している「白米千枚田あぜ道便り」では今回のニュースがコロナ関連となりました。

田植えは輪島市民と経済界の方約80名に手伝ってもらい1日で完了しました。経済界は今まで資金援助を頂いていましたが、初めて現地においてもあり、関係が深まりました。6、7、8月のオーナー草刈りは中止。9月の稲刈りはオーナーと一緒に稲刈りを考えています。9月19〜22日の4連休で分散作業を検討中です。

お米の販売は、千枚田ポケットパークもGW休館で減少。しかし棚田オーナーへの案内とネット通販は予想以上で昨年並みの売り上げは確保できる見込みです。観光面は夏のキリコ祭りやスポーツ大会も中止で千枚田を訪問される方も少なくなりませんが、おもてなしにつとめ、ここは頑張っけて乗り切っていきたいです。

市民ボランティアによる田植え





霧湧く棚田

豪雪地の棚田と これを支えるもの

写真・文
宮澤 幸雄

新潟県十日町市松代地区には全国的に有名な棚田スポットが点在します。これらは数百年前の先人達が豪雪と地滑りの当地を雪解けの湧水と天水を利用する棚田として開拓し現在まで連続と受け継いできた遺産でもあり、耕作によってこれらを支えています。まさに自然と人間が共存するユートピアと言っても過言ではありません。

今回はその中で全国的に最も有名な「星峠」の夏の写真を紹介します。

切れ込んだ谷筋に幾重にも折り重なった棚田には、田植え後の初夏の日の光が差し、取り巻く林から立ち上がる霧が光芒となって出現し、幻想的な光景を醸し出しています。



田植え後の棚田に伸びる
ツルマメの蔓



宮澤 幸雄 みやざわ ゆきお

1955年新潟県十日町市に生まれる。新潟県警察官として在職中の1994年、風景写真家宮下正巳氏(新潟県妙高市在住)に出会い心酔し、指導を受けながら風景写真撮影を開始する。専ら旧東頸城郡(現十日町市)のいわゆる豪雪地帯のブナ林を対象に撮影をしていたが、当地の棚田に展開する四季の風景に魅了され以後棚田に展開する風景に傾倒。退職と撮影20年を機に写真集『ブナと棚田の物語』(風景写真出版刊)を上梓。これまで同名の写真展を住居地の上越市内にて3回開催。

棚田・里山
からの
たより



「子猫のひたい」ほどの棚田で

栃木県茂木町 棚田の郷かぶと

「棚田の郷かぶと」の紹介

ここ「棚田の郷かぶと」は、平成19年度から地域の人たちが過疎化の進むこの集落をなんとか活性化させようと「棚田オーナー制度」に取り組み始めました。土地の所有者が不耕作地の有効活用を望まれ、ちょうど「中山間地直接支払制度」が始まった時期でもあり、それを活用して休耕地を整備し、看板を掲げ、わずか30アールにも満たない棚田のスタートでした。幸いにも多くのオーナーさんが来て下さり、オーナーと地域住民の和気藹々とした米作りがスタートしたのです。オーナーさんを迎えるにあたり地域の女性の皆さん総出で毎回地域の料理等に腕を振るっています。喜ばれる一位は棚田米のおにぎり、二位は味噌汁、そして三位は季節のお漬物です。

オーナーさんとの一年

昔ながらの稲作りをするために昔ながらの方法で作業を行うことにしています。三月末に地元の人たちで耕起（田おこし）し水を入れます。四月に田んぼの粗掻きをして、オーナーさんを待ちます。オーナーさんは田んぼの畔かけ（川あぜぬり）を行い、いよいよ植代掻きをして、五月中旬に田植えとなります。田んぼの一大行事であり御祝いでもあります。赤飯を炊き、白で杵つき餅をつくり、オーナーさんと地元総出で懇親会となります。

田植えが終わればその後は水の管理と草刈りが主な仕事となります。六月初旬に「ホタル観察会」を行います。バーベキューその他で楽しみながら夜を待ちます。夜八時前、川沿いの道でホタルの乱舞にオーナーさんやその子どもさんたちが歓声を上げます。



1: 夏の草取り / 2・3: 田植え風景 / 3: 稲刈り風景

植えたばかりの田んぼは点線ですが、やがて実線になりそして面となった緑の「棚田に吹く風」は「風のあしあと」を残していきます。風の足跡は麦畑ばかりではありません。

八月下旬、田んぼの水抜き（落水）をします。その時は楽しい「流しそうめん」の行事でもあります。子どもさんたちは割り箸を片手に竹の樋を流れてくるそうめんを我先にとすくい上げます。

九月中旬、いよいよ稲刈りとなります。鎌を持って片手に余る株を刈ります。そしてオダガケにかけて二週間天日干しをします。これがお米を美味しくするわけです。稲作りは最後まで太陽に寄り添いながらの仕事となります。二週間後に脱穀の作業となります。籾が音を立てて機械の中に吸い込まれていく瞬間は収穫の喜びです。

そしていよいよ一週間後、玄米になったお米が30kgの袋に入ってオーナーさんに渡されます。オーナーさんは米作りがこんなに手間のかかるものだったとは思わなかった、という感想を述べますが、

それがまた米作りの楽しみでもあります。

今年は「新型コロナウイルス」のためにこうした行事が持てなくなってしまいました。地元の人たちによって植えられ管理された田んぼは寂しく来年のオーナーさん一家を待っています。

今後の課題

「棚田オーナー制度」を始めた当時五十代、六十代、七十代だった地域の人たちも今では当然六十代、七十代そして八十代になりました。オーナーさんをもてなす諸行事やイベントも縮小せざるを得なくな

りつつあります。しかし毎年多くのオーナーさんが栃木県内は言うに及ばず東京や千葉、茨城などから来て下さいます。リピーターは毎年七割を越えています。オーナー制度の当初から参加して下さっている方も十数名いらっしゃいます。しかし受け入れる側の地域の人たちの高齢化は着実に進んでいます。我が棚田オーナー制度のネックは、残念ながら私共の高齢化にあると言うこととなります。地域住人の高齢化の進む中、どのようにオーナーさんと協力して維持していくか模索の最中です。

(元「棚田の郷かぶと」代表五味淵光弘)



棚田へのアクセス

【公共交通】 真岡鉄道の終点「茂木」よりタクシー利用で山内集落まで約20分

【自動車】 最寄りICは北関東自動車道「友部IC」。ICより「道の駅もてぎ」を目指し国道123号線を経由し、那珂川大橋のたもとより県道171号に入る。道の駅より14km約20分、ICからは約1時間

お問い合わせ

栃木県茂木町農林課
Tel. 0285-63-5634



流しそうめん

トロノキファーム奮闘記



これぞ儀明二本桜



田植えの後で

新潟県十日町市は日本有数の棚田の集積地帯で、雲海で有名な蒲生の棚田と、桜で有名な儀明の棚田は年間を通じて多くの写真愛好家が訪れるスポットです。昨年春の棚田保存会総会でのことでした。それまで長く儀明の棚田を耕作してきた方が耕作をやめるといふのです。「誰かにやってもうえれば...」会場の公民館は静まりかえりました。しばしの沈黙の後、会長の口から出た言葉に耳を疑いました。「阿久澤さん、やってみますか?」「えっ? あ... いや... 棚田が好きでここに住み始めましたが... 二地域居住なので... できませんが自分...」

思えば、本当に有難いことでした。そして、コロナ真只中の3月、地元有志と株式会社トロノキファームを設立。柳さん(元蒲生区長)、山岸さん(現蒲生区長)、小山さん(元地域おこし協力隊)、池田さん(二地域居住者の先輩)という強力な面々に取締役に就任して頂いたことは本当にラッキーでした。当初の目標は、桜開花までに田圃に水を張ること、無農薬でやること。皆で必死に代掻きをし、無事に田植えを終えることができたが、記録的な暖冬小雪により天水田は既に水不足。本当に米ができるのだろうか? 不安だらけの船出でした。

Toronoki Farm Story

特選

棚田の逸品

熊本県水俣市
久木野の棚田

冷めても美味しい! 香り米

「ポップコーンだ!!」

初めて香り米「万石」を炊いた時、我が息子(当時4歳)の発した歓声です。東京から水俣市久木野に引越して、私も初めて知った日本の香り米でした。東南アジアでは時折り食べていたのですが、

あまりの美味さにすっかり惚れ込んで、ご近所に聞いてみると、たくさんのお宅で独自の種を栽培していました。久木野では「かばしこ」とも言います。芳しいやつ、くらいな感じでしょうか。

穂にはノゲがあり、背も180cm近くなり、脱粒しやすく、栽培しにくい品種です。でも、とても美味しいので、何とか棚田保全に役立てたいと思い、品種固定とうるち品種つくりを弘前大と共同研究中です。

1kg当たりでは2200円ととっても高価ですが、それだけの価値のあるお米です。棚田の景色と守り手を応援するためにも、皆様ぜひ応援をいただければ幸いです。

沢畑亨 (水俣市・愛林館館長)



- たなだのかおり(ヒノヒカリ9割、香り米「万石」1割のブレンド米) 1kg 720円
2合(300g) 412円
 - 久木野の香り米「万石(まんごく)」 1合(150g) 309円
- HPでこちらの商品を購入できます [いずれも+税、送料]
<http://tanadanokaori.com/> ※香り米は5個以内ならレターパックで送れます



棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の 全国棚田行脚

油谷湾に臨む向津具半島の棚田

山口県長門市油谷本郷



なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO 法人棚田ネットワーク代表。全国棚田 (千枚田) 連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

長門市は県西部、漁港の仙崎や青海島の景勝地などで知られているが、平成の合併で加わった油谷町の向津具半島は一面棚田であり、その一部の東後畑は日本海に面し、イカ釣り船の漁火が映える棚田として百選にも選ばれている。今回訪ねた本郷は同じ向津具半島にありながら、日本海とは反対の内湾に面しているため、これまであまり知られていなかった。しかし、江ノ島が浮かぶ油谷湾に面する本郷は優れた景観の棚田である。

それを知ったのは、2019年10月に長門市で開催された第25回国棚田サミットの現地見学会だ。この時現地の説明人であった棚田の守り人大汐光晴さんに出会って知己を得、再度訪問することを約束した。

再度の訪問は翌月の11月中旬、小春日和の日であった。東京から訪ねる場合、空港に隣接する地域でなければ国内で最も訪ねるのが不便な地域の一つである。新幹線を乗り継ぎ厚狭で前泊、翌朝一番列車に乗り8時過ぎに最寄り駅の人丸に到着した。

現地へは、大汐さんが出迎えていて自家用車に乗ったが、公共の交通機関として1日9便、油谷島行きブルーライン交通のバスが運行されている。

油谷湾に臨む急傾斜地の棚田

棚田は、漁港からその背後の本郷に向けて標高30mから100mにかけての丘陵斜面に拓かれている。傾斜6分の1の超急斜地の棚田である。丘陵の上から見る景観は、斜

面を階段状に刻む棚田の先に久津漁港の家並があり、さらにその先には江ノ島が浮かぶ油谷湾が広がっている。百選の棚田の一つ佐賀県東松浦半島西海岸の多島海にイロハ島が浮かぶ唐津市大浦の棚田を彷彿とさせる。あまりの絶景に弘法大師も筆を落としてしまったという伝説のある棚田だ。

面積3・2畝、約100枚、1枚の大きさは2〜3㎡、形状はおおよそ等高線型である。上・中・下段の3つに分けられ、下段はやや緩やかである。これに対し中・上段にかけては傾斜が急で、ところどころに地すべり防止の水抜きパイプのあるコ

ンクリート壁が設けられている。下の集落を護るため建設省が工事したそうだ。下段は十数段、法面は下が石積み、上は土坡になっており、その高さは2段前後。中段は10段ほど、高さ2段ほどの法面は土坡よりも石積みが目立つ。上段は12段、幅は7〜8段に過ぎないのに石積みと土坡の法面の高さは3段前後、高いものは10段近くのものもあり、草刈りの大変さが偲ばれる。

棚田を守る5人組

現地では向津具棚田みまもり組のメンバーが待ち受けていた。大汐さんをリーダーにした5人組、昨年度共同で購入したバックフオーを活用し、耕作放棄から地域をまもるために結成された組織である。ま

ず、大汐さんは57歳、妻52歳のほか父84歳、母77歳、長男26歳が同居、家族全員が農業に従事する棚田地域では珍しい重世代家族の専業農家だ。父親は小作農から身を起し、水田90アを所有するとともに繁殖・肥育牛30頭を飼育する畜産農家になった。地域活動にも熱心で油谷町本郷消防分団長を36年間務めた功績により農家の人としては稀いな瑞宝単光章の叙勲を受けている地域の名士でもある。

大汐さん自身は高校卒業後、県立農業大学校に進学、2年間の学業を終え家畜人工授精士の資格を取得して就農した。水田2・7畝を所有、その他に放棄された水田50アを引き受け、食用80ア、飼料用50アで米、その他は粗飼料のイ

タリアンライグラスを栽培している。そのほかに、平地水田11畝を活用、8月まで地主に飼料イネを栽培管理してもらい、その後の収穫は自ら行い、自家用の飼料として用いるほか地元農家に販売もしているという。このために、WCS (Whole silage) 用のデイスクモアー・ロールラッピングマシンなどの機械類を購入し、そのほかにトラクター5台、乗用4条田植機、乗用2条刈コンバインなども所有しているそうだ。

さらに、同じ県立農業大学校の畜産科を卒業した長男とともに、父親が築いた畜産業を引き継ぎ、人工授精を自らが行う繁殖牛23頭、肥育牛40頭の黒毛和牛を舎飼により飼育している。さらに、仲間10名と向津

具十牛放牧組合を結成、耕作放棄地を利用した放牧が考えられており、大汐さん自身もこれから取り組む積もりだそうだ。1日も休むことを許されない畜産業を営みながら農業委員、中山間地域等直接支払事務局長、放牧組合長などの役職をこなす地域のキーパーソンである。

みまもり組のサブリーダーが大汐一夫さん52歳だ。県内の短大を卒業後、一時地元のJAに勤務したが、30歳の時に知的障害者の福祉施設あけぼの園に転職。現在も勤めながら母親79歳、姉56歳とともに家業の農業にも携わる兼業農家だ。水田2・9畝を所有、放棄された水田40アを引き受け、そのうちの2・5畝で所有する機械類トラクター22馬力、乗用5条田植機、2条刈コンバインなどを駆使して米を作り、残り80アで野菜類を栽培しているという。そのほか山林80アを所有、植栽されたクヌギを活用し、600本の原木に植菌して椎茸を作り、その廃材を活用して木炭を作ったこともあるそうだ。

若手の久保田和也さん37歳は、父66歳、母62歳、祖父89歳、祖母82歳と暮らす3世代家族。大汐さん同様



1: 棚田中段 / 2: 6分の1の急傾斜、奥は農水省の松本さん / 3: 地すべり防止の水抜きパイプ / 4: みまもり組のメンバー、中央が大汐さん

に県立農業大学校畜産コースの卒業生で、家畜人工授精士の資格を持ち、父母とともに就農する専業農家だ。所有する水田2畝をトラクター3台、乗用4条田植機、乗用2条刈コンバインを用いて耕作、米を栽培している。畜産は、放牧組合のメンバーでもあり、繁殖牛11頭を飼育するために耕作放棄地の棚田20枚、2・5畝を地代10万円当たり2千〜2千5百円で借り、放牧地あるいは牧草栽培地として利用しているという。

最年少の上田和幸さん30歳は、妻31歳、長男2歳のほか父59歳、母53歳、祖父83歳、祖母79歳が同居する4世代にわたる賑やかな重世代



上：耕作放棄地も見られる／中：港をバックに／下：新鮮活魚の久津港の旅館

家族。県立農業大学校を卒業した大汐、久保田さんの後輩、妻と母は会社員であるが、自身と父、祖母が農業に従事する兼業農家だ。トラクター2台、乗用5条田植機、コンバイン2台を駆使して圃場整備された所有水田1畝、7枚で米、耕作放棄された棚田1畝、30枚を借り受けて牧草を栽培している。そのうえに、繁殖牛11頭、肥育牛2〜3頭を常時飼育する畜産農家でもある。

若手の守り人に恵まれた地区

これらみまもり組のほかに、若手の協力会員上岡大輔さん36歳がいる。鹿児島県喜界島の出身、島に観光に来た向津具出身の女性と知

り合い結婚、当地に住むようになったという。重機のリース会社に勤める会社員であるが、休日などにみまもり組の活動に参加する頼もしい助っ人である。

このように、長門市油谷本郷地区は若手の棚田の守り人に恵まれた地区である。しかも次世代にわたる後継者がそろって居る地区はきわめて珍しく、特筆すべき点だ。その理由を考えるに自立して生活できる生業の存在が要点である。当地区では畜産と椎茸栽培がそれに当たり、生活が安定したところで父祖伝

来の棚田を守ろうとする余裕が生まれているのである。



共同購入のバックフォア

本郷棚田へのアクセス



【公共交通】JR山陰本線・人丸駅前よりブルーライン交通の油谷島行きのバスに乗り、久津漁協で下車。徒歩10分

【自動車】人丸駅前の国道191号線から県道66号線を経由し県道357号線を油谷島方面に進む。人丸駅前から約12km

～沼田市の棚田に見る～
古墳時代の水田

埼玉県所沢市 上久保 郁夫



1:湧き水豊富な棚田/2:棚田と国道・奥は沼田市街/3:発掘に協力した地主さん/4:左側が発掘現場/5:最下層の水田跡

1500年もの永い眠りからさめた棚田のお話です。場所は日本一の河岸段丘で知られる片品川と利根川が合流する沼田市下川田地区。10年以上通い続けたみなかみ町スポーツクラブへの道すがらの場所で、利根川右岸の段丘です。

この発端は1988年に始まった国道17号線のバイパス工事によるもので、古墳時代の水田跡や弥生時代の住居跡が見つかり地元紙に大きく報じられました。

段丘に広がる下川田地区の現在の棚田は、小規模ながらも曲線の美しい土坡の棚田です。畦の高さは上段側では大人の背丈ほどですが、下段側では膝ほどで緩やかな勾配になっています。発掘の舞台はこの下段部の平坦に近い部分です。

この発掘調査で驚かされるのは、古墳時代の水田が現存する棚田のご真ん中、しかも現存する棚田の下層数メートルに眠っており、いわば棚田の二段重ね三段重ねの様相を帯びていることです。

沼田市西方の活火山・浅間山の平安大噴火(As-B・西暦1108年)と古墳時代の榛名大噴火(Hr-FP・西暦550年頃)の二度の噴火では西風により多量の軽石と火山灰がこの地に降り注ぎローム層の上に積もっています。

バイパス工事では、先ず表層棚田が掘り起こ

され、As-B層の下層に軽石に覆われた平安時代以前の水田が姿を現したのです。更に深く掘り進みHr-FP層の下層では古墳時代の水田が姿を現したということです。

古墳時代の水田の特徴は1枚当たりの面積が極端に小さく平均値は3~4㎡ほど。もう一つの特徴は畦の大きさ。積層土で押しつぶされたとはいえ単に水を囲い込むだけの小さなもので、現在の手あぜ(うわ畦)のようなものでした。小さな水田は高低差も少なく簡易な土盛りで間に合ったのでしょう。

竪穴住居、縄文土器などの遺構が確認されましたが、不思議なことに田面には軽石が残されたままで水田修復の痕跡が見られないことです。あまりの降灰で水田が埋没し、人々はよそに移住したと推測されます。埋没の度に荒涼と化した地表に再び稲作に適した肥沃な土壌が形成されるには、数十年から数百年を要したと考えられています。水田と共に発掘された南面の竪穴住居15軒は弥生時代のもので、当時から稲作が行われていたのか、調査報告書には触れられていませんが興味がわいてきます。

注1:参考文献:「下川田下原遺跡・下川田平井遺跡」(群馬県埋蔵文化財調査事業団他)

注2:百科事典『棚田-Wikipedia』の「古い用例」に、この古墳時代の棚田の記述がある。

会員のひろば



会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!ご要望、感想やご質問でもOK!(会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて)〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-1-1816 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受付いたします ⇩ hiroba@tanada.or.jp

会員の
Best Shot!

会員のみなさんの
ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます! 送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーチンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇒ hiroba@tanada.or.jp

鴨川市・二子棚田
東京都品川区 楠井彰子
5月、曇天の太平洋を望む「海の見える二子棚田」。今年はコロナ禍でオーナー不参加の田植えとなりましたが、夏には青空の下、輝く海を眺めながら共に汗を流したい!



2020年夏公開予定/監督 瀧澤正治
出演/川北のん、吉本実憂、中島ひろ子ほか
問い合わせ先:警女ミュージアム高田
<http://www.goze-museum.com/>

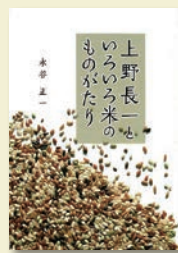
生まれながらに盲目という障害を背負いながらも、母の教えを一途に守り、その運命を恨まず、人の幸せを妬まず、人を差別せず、人に楽しみを与えようと健気な心で人生を全うした女旅芸人警女、小林ハルの物語です。

この映画のロケ地は新潟県の三条市・北五百川の棚田や上越市・大月の棚田など豊かな自然をバックに展開されています。監督の瀧澤正治氏は「子供からお年寄りまで観て頂ける映画として、小林ハルさんを通して、世界の人人々に生きる事の喜びや楽しみを伝えたいと考えています」と述べています。



「警女—GOZE—」

編集部イチオシ! **BOOK & MOVIE**



水谷正一 著
1,200円(税別)
しもつけの心出版
2020年3月

上野長一 いろいろな米のものがたり

「いろいろ米」という名前を聞いたことがあるだろうか。栃木県上三川町の自然農の農家・上野長一さんが作る、60種類もの稲が混植される田んぼで穫れるお米だ。通常の米作りでは1枚の田で苗は混植しないが、いろいろ米の田では赤米や黒米などの古代米、糯米、粳米などを混植し、秋にはこれらの稲の穂と葉の色が入り交じる美しくも不思議な光景が見られるという。大学を定年退職後に上野さんに「弟子入り」した著者が、自らの体験と資料をもとに執筆。行間から伝わる自然農の温かさ・優しさ・厳しさは、著者の姿でもあろう。

「棚田NAVI」がオープンしました!

報告 棚田NAVIチーム 高河 昭一

昨年6月にプロジェクトがスタートした全国棚田(千枚田)検索サイト「棚田NAVI」。当初の予定より遅れたものの、4月17日にオープンいたしました! 最初の掲載は約60ヶ所となっておりますが、今後も段階的に増やして全国を網羅していきます。皆様に使っていただいてこそポータルサイトですので、まずはアクセスして、いろいろ検索してみてください。

ご利用お待ちしております。



こちらから
アクセス!



初のテレビ会議による総会

2020年5月23日 報告 棚田ネットワーク事務局

新型コロナウイルス感染拡大防止の「緊急事態宣言」下での3密を避けるために、テレビ会議によるNPO年次総会を実施しました。

多くの会員様には書面での対応をお願いし、役員など小人数によるテレビ会議でしたが、事務局長のホストPCに関東近辺ばかりでなく新潟や岐阜など遠隔地役員もいとも簡単に接続でき、効率的な総会ができました。

外出自粛やテレワークを余儀なくされ「早く棚田に行きたい」と感じ始めたとき、里山や棚田が私たちの生活や心の支えに如何に大きな存在であるか考えさせられる機会でもありました。



棚田ネットワークの
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

「高」がつかないとダメなのですか?

棚田ネットワーク事務局スタッフの苗字は、なぜか「高」率が多い。現在、高野、高山、高河、高桑の4名の「高」を揃えている。いや別に揃えているわけではなく、偶然揃ってしまったのだ。

よくスタッフで打ち合わせなどに行つて名刺を渡すと、必ずと言っていいほど怪訝な顔をされる。目の前で名刺を差し出す3名が、みな「高姓」なのだから当然である。

「えっ、棚田ネットワークの皆さんは、みな高が付くのですか?」

いや、そんな訳がない。慌てて状況を説明するのだが、まあ逆にそれが緊張感をほぐし、「つかみはOK!」的なツールになっているので、重宝はしている。

また、新規スタッフの面接時に、「高」スタッフが揃ってしまった。

「えっ私、高が付かないのですが、ダメですか?」

いや、そんな訳がない。まあそれでも「高」が付いていたらそれはそれで嬉しいと思う「高」スタッフはいるだろう。

はたまた、スタッフミーティングで「4高」そろい踏みし、一人になってしまつ「非高」の人がいると。

「なんか居心地悪いなあ...」

いや、そんな訳がない。まあでもちょっと「どや顔」になっている「4高」であることも間違いない。

なんでこんなに「高」が多いのかももちろん謎だ。棚田は基本高いところにあるから、高姓は「棚田好き」が多いのか? いや、そんな訳ないだろう。

スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人

事務局
Kuwakuwa



千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

新型コロナウイルス感染防止で
田植え体験中止



お米づくり体験プログラム6年目を迎えましたが、今年は新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言を受け、オーナーも含め田植え行事は中止し、全て地元農家の皆さんに植えていただきました。会報でも5月3日の田植えの案内をし、楽しみにしておられた皆さん、非常に残念でした。5月の連休明けに無事全ての棚田の田植えが終わりましたとの報告が地元代表よりありました。

千葉県の緊急事態宣言も5月末には解除され、これから徐々に日常を取り戻す動きが出来ると思いますが、天候に恵まれ、苗も順調な生育をし無事稲刈りができることを願っていきましょう。

6月7日の畔の草刈り作業までは地元農家だけで行うとのことですが、その後は、オーナーさん等も参加できるようになる予定です。稲刈りは9月6日(日)ですので、草刈、脱穀や収穫祭についても田植えが出来なかった分、棚田の空気を吸いにお出かけください。皆様の積極的な参加をお待ちしています。

(杉山行男・上久保郁夫)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

コロナ禍で調査中断
田植えは声をかけずに



前回会報でヤマアカガエル^カの調査を2回し、第3回目をする予定と報告しましたが、新型コロナウイルスのため、同じ県内ですが「ステイホーム」となり、調査することができませんでした。合計卵塊数は159個と例年より少し多いので、今年はこんなものかな、と思っています。

基本的に棚田オーナー制度の田植えは中止となった今年^{かいこおきてくわをはむ}の坂折棚田ですが、住民とは会わずに田植えはできるということで、七十二候の蚕起食桑、ちょっと暑い5月24日(日)に棚田ビオトープで田植えをしました。例年なら皆さんに声をかけるのですが、今年は私と子供のみ。思ったより時間がかかりました。

この棚田ビオトープは3月上旬に代掻きをしてもらい、3月中下旬にヤマアカガエルが産卵、オタマジャクシや成体(大人)になる頃、田植えをします。通常なら数週間前に代掻きをしてから植えるのですが、オタマジャクシが泳いでいるためそれができず、まず草取りをし、終わってから田植えとなります。なお、稲刈りは9月28日(月)を予定しています。

(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

コロナ禍で、今年の耕作を断念！



新型コロナウイルスの感染拡大で、不要不急の外出自粛要請が出てはいたのですが、作業を遅らせると田植えに間に合わないため、3月28、29日に細心の注意を払ってスタッフと少数のボランティアで、畔切りと簀口作り作業を行いました。しかし、4月に入り緊急事態宣言が発令され、県をまたいでの移動が制限される中、農作業という名目はあるのですが、高齢者や持病を持つ人が多い集落に都心から入ることは、あまりにもリスクがあると判断して、残念ながら今年の棚田ネットの8枚の田の耕作は断念することになりました。

今年のプロジェクトは、休耕田の草刈り作業とオーナー田のサポートなどを行います。また石部棚田は、昨年国会で成立した「棚田地域振興法」の受け皿として、さらに地域の高齢化する保存会だけでは棚田の維持は難しくなっている状況をふまえ、役所や企業や私たち町外の支援団体を含めた「石部棚田振興協議会」を設立します。棚田ネットもそのメンバーに入り、5月16日に行われた設立総会にリモートでスタッフ2名が参加しました。

(高桑 智雄)

棚田で“スマート”農業



農水省の「令和2年度スマート農業加速化実証プロジェクト」に、棚田米穀も参加する「大阪のてっぺん」天王地区スマート農業推進コンソーシアムの提案が採択されました。

テーマは「スマート農業による中山間地農業振興と関係人口・交流人口の増加」。棚田地域の農業の大変さを、ドローンやラジコン草刈り機、水田センサーや箱罫センサーを活用することで「スマート」にし、地域への注目を集め、次世代の担い手につなげる狙いです。



◀「大阪のてっぺん」天王の棚田

実施地域は能勢町天王地区、大阪府の最北端の標高500m、人口130人の小さな集落です。携帯電波も届かない山の中に連なる西山の棚田、荒れている東山の棚田があり、特に東山では、休耕田を学生やボランティアと共に復活させる「棚田再生プロジェクト」を実施します。

ご視察・ご見学大歓迎!

NPO法人棚田ネットワークも本プロジェクトに参画しています。同じ課題を抱える棚田地域の皆様のご視察・ご見学をお待ちしています!

棚田米穀

大阪市北区中崎西3-2-17-212 <https://komedouraku.thebase.in/>

■お問い合わせ: naka@komedouraku.com Tel. 090-1906-9150(中崎)



わたしたちと「棚田の応援団」やしませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい“棚田”をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になろう!

年会費

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

- 個人会員
 - 維持会員 1口1万円(1口以上)
 - 一般会員 4,000円
 - 応援会員 3,000円
 - 学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

- 法人会員(賛助会員) 1口3万円(1口以上)

編集部から

本来農業は、今回のコロナ禍で一番影響がない分野だと思っていた。いやむしろ、都市型の生活が困難を極め、地方の農業などがあらためて注目され、活性化するきっかけにもなるとも思った。しかしこの棚田になると、そもそも言ってられなかった。棚田は農業の場とはいえず、都市部との交流の舞台として成り立っている所が多く、今回の特集のレポートにあるように、コロナ禍はむしろ棚田を直撃したといえるのかもしれない。棚田を維持していくためには、都市部の危うい力の依存だけでなく、同時に安定した地域の力をいかに高めて行くかという課題をあらためてコロナに突き付けられたような気がした。

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイトも見てみてください!



<https://www.tanada.or.jp>



2020年 夏号 Vol.116

発行  認定NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565